

## ◆ 花葉会賞受賞記念講演 2

# 育種はサービス産業 育種はエデュケーション

綾園芸 草野 修 一

なぜ、今日、私がこの場に招かれたのか？

ラナンキュラスで、2012 フロリアードゴールドメダル1席やフラワー・オブ・ザ・イヤー 2012 を受賞したため。花業界から育種家へのごほうびと思っている。

ラナンキュラスは地中海東部～中近東、およびカナリア諸島原産。したがって、乾燥した空気と土中の適度な水分を好む、寒さに強い（-10℃）、暑さに弱い（夏休眠）。800年前十字軍がフランスに持ち帰り、400年前トルコ宮廷で育成され、200年前にはイギリスで800品種にもなった。日本へは明治中期に來歴し、ハナキンボウゲの和名がある。現在の主要な産地はフランスのコントアー社、イタリアのピアンチェリ社、アメリカのフラワーフィールド、そして日本。海外はいずれも地中海性気候のところである。また、ラナンキュラスの特徴は、①無い色はないほどカラフル、②花弁が多い（100～200以上も）。原種は5枚である、③花弁の表面に光沢があることである。

ラナンキュラス育種のきっかけは父にある。1960～70年ビクトリアストレインや浜の虹、1980～90年ポット用のワンダーランドを育成。しかし、日本でラナンキュラスの切り花がいまひとつ普及しないのが不思議。切り花品種の完成を夢見て宮崎県へ移住した。

早速栽培。市場での安値に驚く。花は綺麗だが原色で重たすぎる、晩生で採花本数が少ない（8本前後）、ステムが太く、曲っていてアレンジに使いにくい。育種を開始した。

重視した性質は、ラインがきれい、茎が細く硬い、切りやすい、中輪で蕾は卵型、鮮やかな基本6色、早生豊産。営利性の高さを求めた。目標はビクトリアストレインを超える実生系である。エムホワイトに近い各色を選抜し、掛け合わせる系統数を200にふやし、同時にレシプロ交配もする。さらに実生系と栄養系の2つの育種法を同時進行した。

実生系統はスタイルを求めると色が揃わない。色を求めるとスタイルが悪くなる。各色2系統を5～6年かけ純系に近づけてF1にした。F1育種は自殖弱性で苦勞した。だがこの過程で突然変異的形質が出現し、

これを新しい育種素材として活用した。

育種の成果として、まだ未完成で改良中だが、次の2系統があげられる。

○エスピノ系は中輪・早生・豊産・茎は細く硬い。色はレッド・ローズ・オレンジ・ピンク・イエロー・ゴールド・ホワイト・パープル・パステル。

○コート系は大輪・中性・豊産・茎は太めだが真っ直ぐでラインは綺麗。色は固定が不十分だが大輪で人気。色はレッド・ローズ・オレンジ・ピンク・クリームイエロー・ホワイト・パープル。

栄養系統では基本色以外のパステル系がなぜか人気。また、交配の過程でさまざまなものが出てきた。そこでメリクロンで増殖し自社で試作を兼ねて生産した。さらに、巨大輪の親となるペオニー咲き、新シリーズのモロッコも誕生した。

栄養系・交配の過程で様々な物が出てきた。自社でメリクロン



新シリーズ“モロッコ”  
予期せぬものの出現・イメージの先にあるもの



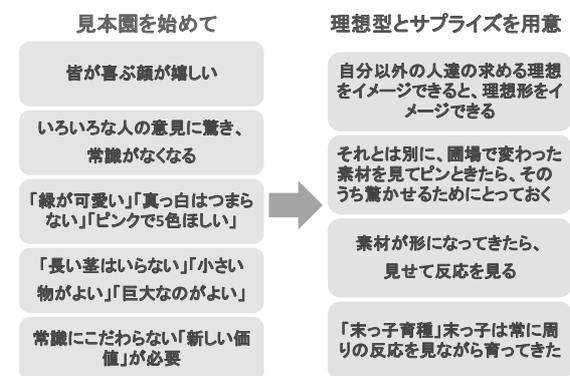
さて、この花をいかに販売していったかである。市場では人気を得たが、認知度が上がらない。ここで、

マーケティングである。どういふものなら売れるのかを知り、どんなものを作るかに繋げる。当時、ランキユラスは蕾で出荷。これも可愛い。でも明日のブライダルに使うなら満開の花も必要。満開の花に真冬のブライダル用の満開の花に250～300円の値段がついた。フラワースピリットの上條信太郎さんとの出会いから始めた売り方である。

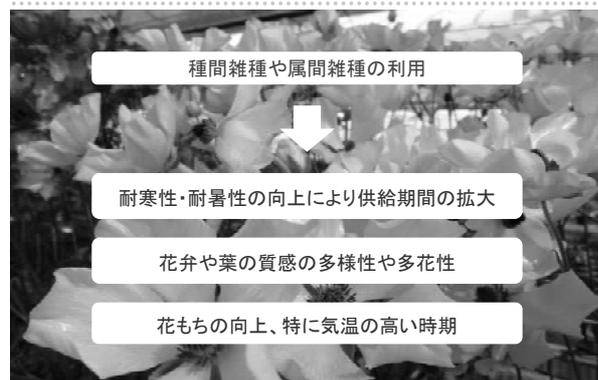
ローヌ会も発足。綾系のランキユラスという新しい花を売り出していくにあたっての共通認識を形成するために、種苗商、生産者、花屋（フローリスト）、卸、市場、行政、育種家、消費者を一つの輪として意見交換の場とした。そして現物を見てもらい可能性を認識してもらうことにより、期待感を抱いてもらう。これがローヌ会の役割である。見本園を一般公開し、満開の花を見てもらい、関係者の意見交換をした。

長野県のフラワースピリッツとJA高千穂地区の2つのグループが栽培を開始。熱い思いが産地を作る。普及員が仕掛け、産地のレベルアップと意識共有のための勉強会を開催。産地の気候にマッチした素晴らしい出来栄である。

## 育種はサービス産業 サービス産業としての要素



### これからの夢①



最後に、時間切れで講演できなかった部分をパワーポイントから転記して紹介したい。

「花を見る人すべてに喜んでほしい。喜ぶ顔が見たいから、育種はサービス産業である。さらに育種を進めていくと、植物は自分から表現して、花の色や形にさまざまな変化を見せる。植物から試されているのではないかと感じさせられる。自生地を訪ね、種間雑種の可能性もつかんだ」。そして、さらに次の夢を追い続けている。

## 育種はエデュケーション・植物は自分から表現する



## 花作りはファッション産業に似ている

花作りは、洋服やお菓子の世界と似ていて、飽きない定番の商品を店に置きながら、毎年新しいものを出したり、昔に戻ったり...



### これからの夢②

#### 花壇を彩る、雨風に強いランキユラスの育成

